

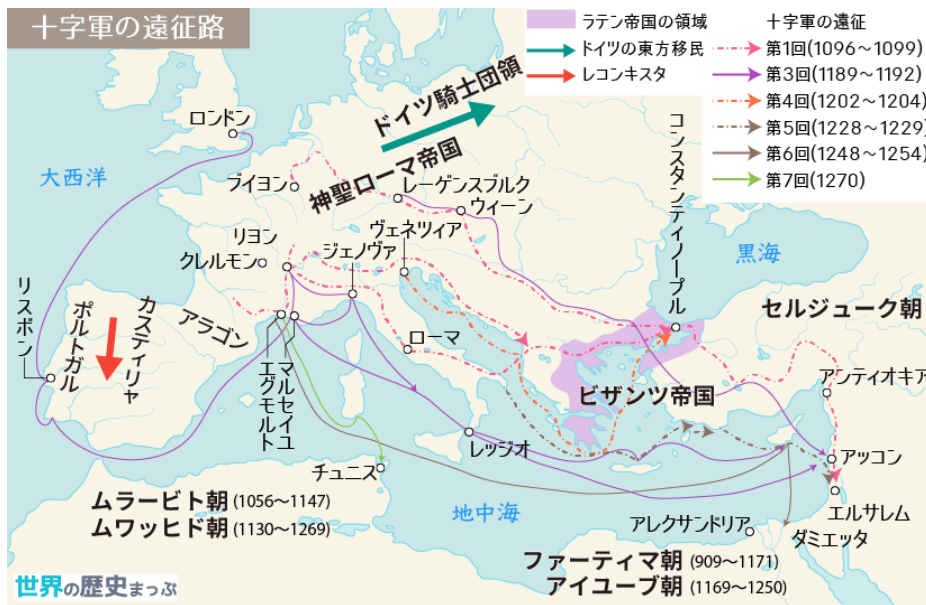
「十字軍」

十字軍は、勢力を拡大するイスラーム国家（ ）に対抗する中で成立。

特に圧迫を受けていた（ ）は西ヨーロッパ世界にSOSを発信。  
ローマ教皇（ ）は、（ ）を開き、十字軍派遣を決定。



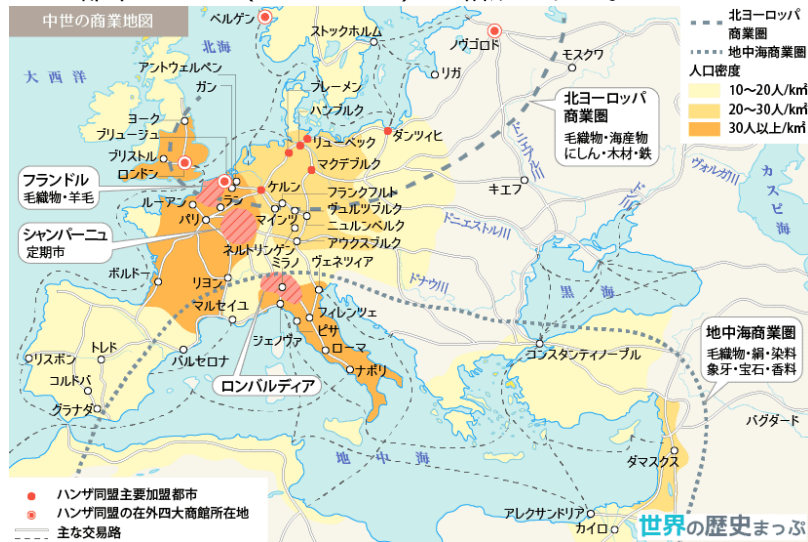
しかし（ ）十字軍に関しては、（ ）の要求より、ヴェネツィアのライバルであったビザンツ帝国の都（ ）を攻撃し、略奪。



### 「十字軍の影響」

十字軍は失敗に終わったが、十字軍派遣により道路が整備され、モノや人の交流がヨーロッパの（ ）を発展させた。

結果、（ ）が発展し、北イタリアの都市による（ ）が結成されたり、北ドイツの都市による（ ）が結成された。



十字軍のもう1つの影響は、（ ）の低下。相次ぐ失敗がローマ教皇の権威を下げ、（ ）。教皇（ ）が、フランス王（ ）に捕らえられ、監禁される事件が発生。

フィリップ4世はフランスの（ ）に新たな教皇をおき、教会大分裂を引き起こした。墮落し、権威が落ちたカトリック教会に対して、後に（ ）が起きる。

### 「中世のイギリス」

十字軍は失敗したが、王は諸侯や騎士を率いてイスラーム教徒と戦ったことで、関係が強くなり、中世後半は（ ）が出来てきた。

ノルマン人の（ ）が（ ）を開いたが、断絶したため、血筋の関係からフランス王の家臣アンジュー伯の（ ）が（ ）として王位を継承し、（ ）を開く。

プランタジネット朝の（ ）は、フランス王（ ）との戦いに敗れてフランス内のイギリス領を失う。また教皇（ ）に破門される。失敗続きの（ ）は貴族より（ ）を突き付けられ、勝手な政治が出来なくなった。

ジョン王の次の王（ ）は、（ ）を無視し、勝手な政治を行ったため、（ ）が反乱を起こし、議会開催を訴えた。

次の王、（ ）は（ ）を作った。

「中世のフランスと百年戦争」

カペー朝の（ ）は、イギリスのジョン王に勝利し、フランス内のイギリス領を奪還。

（ ）は、教皇（ ）と対立し、幽閉（ ）フィリップ4世は教皇を拉致する前に、聖職者・貴族・平民の代表からなる（ ）を開催、国家での権威を示し、王権を強大化。

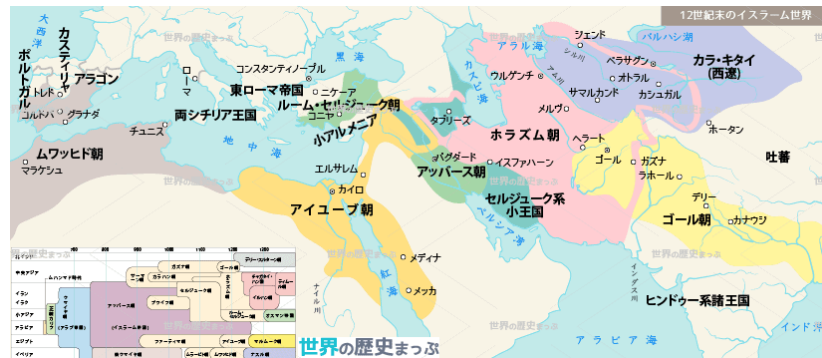
フランスの（ ）が断絶し、（ ）が成立した際、イギリスはフランスの王位継承を訴え、両者が激突し、（ ）が勃発。

前半はイギリスが勝利するも、後半に（ ）という16歳の少女が表れ、フランスの逆転。

百年戦争後、イギリスでは、ランカスター家とヨーク家との（ ）が勃発。

「中世のスペイン」

イスラーム勢力に支配されていた中世のイベリア半島

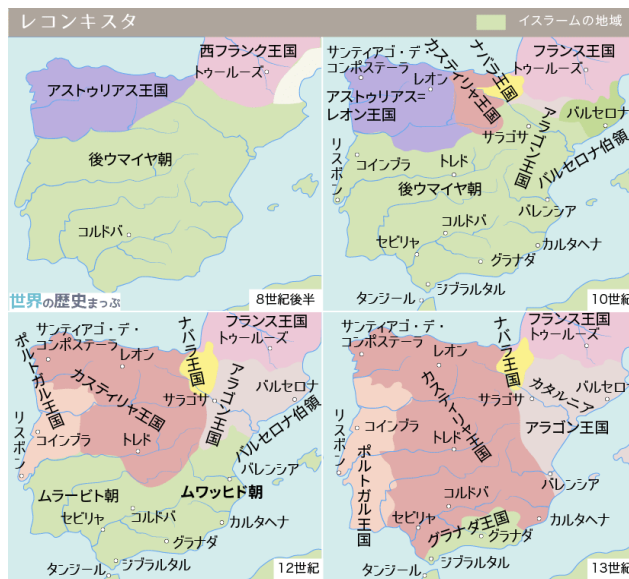


キリスト教徒がイスラーム勢力からイベリア半島を取り戻そうとする国土回復運動（ ）が続いていた。

この中でカスティーリヤ王女の（ ）とアラゴン王子の（ ）は結婚し、（ ）が成立

スペイン王国は、イスラーム勢力最後の砦だった（ ）の（ ）を落とし、イスラーム勢力をイベリア半島から追い出すことに成功。

レコンキスタ完成後、スペイン・ポルトガルは（ ）に向かう。



「中世のドイツ・イタリア」

中世のドイツ、（ ）は、カトリックの保護者たるべく、イタリアに攻め込み、国内が不統一、諸侯たちや都市はバラバラに存在していた。そのため、皇帝はうまく決まらず（ ）が続いていた。

その後、（ ）は7人の有力諸侯の選挙によって皇帝を選ぶ（ ）を出す。

イタリアは、ドイツと同様に多くの国や諸侯、都市に分裂しており、イタリア政策に夢中な神聖ローマ帝国の動きに対して、皇帝派（ ）と教皇派（ ）の2つの意見に分かれ、イタリア国内の亀裂は深くなっていた。